

公表 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	さくら児童デイサービス上倉田		
○保護者評価実施期間	2026年2月15日		2026年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年2月15日		2026年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学直前プログラムを行い、挨拶や返事の練習、拳手のタイミング、指名されてから答えるタイミングを学ぶことにより、小学校で困らないよう支援している、また、聞く、話す、身辺自立、コミュニケーション能力の向上が図れること。	お子様個人に合ったオーダーメイドの適切な支援を行っている。個別支援計画書に沿って、1回1回目標を定め、お子様が最大限成長できるようにサポートをしている。	使用する道具や配置する職員といった環境設定の充実を図り、豊かで確実な療育を行っている。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っていること。	保護者様の希望に応じて、事業所でペアレント・トレーニング等を個別で実施している。また、必要と認められれば、外部の研修などの情報提供もしている。	お子様の通う保育園等と連携して、ペアレント・トレーニングの実施状況等を共有し、ご家庭、事業所、保育園等で統一した支援が行えるように調整している。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげられていないこと。	現在まで、第三者による外部評価の重要性を認識しているものの第三者委員を受任していただける方がなかなか見つからず、外部評価が受けられないので、業務改善につなげられていない	同じ課題を抱えている事業所と連携し、相互に第三者委員となり、外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげられるようにしていく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会がないこと。	感染症拡大防止のため、機会が設けられておらず、また1対1の支援のため、十分な職員の配置ができず、地域の中で他の子どもと活動する機会が得られていない。	お子様の通われている保育園等に訪問する等、理解と協力が得られる保育園等との交流を行い、感染症拡大に最大限の配慮を行いながら地域の中で他の子どもと活動する機会を設けていく。
3	職員1人1人の能力の差によって、実施する療育の質の差が出てしまうこと。	職員の経験の差や知識量の差によって、能力にばらつきが見られる。	今後、能力の差によって療育の質の差が出ないように、研修制度を充実させていく。